

結婚意思のない未婚女性の生活満足度規定要因を探る —働く未婚者の生活満足度に関する総合的な検討—

小河映育花（お茶の水女子大学大学院）

【背景と目的】

2015年の国勢調査によると、日本における50歳時未婚率は男性23.4%・女性14.1%となっており、この数値の上昇は今後も続くと推計されている。また「一生結婚するつもりはない」という結婚意思のない未婚者の割合は近年微増を続けており、結婚しない生き方を望む者が増えつつあることが出生動向調査などから見て取れる。

しかし日本社会においては、未だに根強い結婚規範や結婚を上位とする社会通念が残っていることが各種調査等から指摘されており、こうした規範の残る社会では特に未婚女性に様々な負担がかかりやすい現状がある(Sharp & Ganong, 2007)。こういったなかでシングル単位のライフスタイルに注目し、日本において未婚者（特に未婚女性）がシングルのままで充実した生活を送ることができる環境について検討することは重要な課題である。本研究では充実した生活を送れているかどうかを測る指標として生活満足度を使用し、今後もシングルのままで生活していく可能性が高いと思われる女性——結婚意思のない未婚女性（以下、結婚意思なし女性）——に主な焦点を当て、彼女らの生活満足度規定要因について、結婚意思のある未婚者や結婚意思のない未婚男性と比較しながら明らかにすることを目的とする。また本研究では、従来用いられてこなかった結婚意思の有無を基準とした区分を用いながら、未婚者全体の生活満足度規定要因についても総合的に検討する。

【研究方法】

本研究では、2次データ分析とインタビュー調査を実施した。2次データ分析では25～39歳の働く未婚者（計7444名）を、結婚意思なし女性・結婚意思あり女性・結婚意思なし男性・結婚意思あり男性の4グループに分け、生活満足度規定要因について階層的重回帰分析を用いて検討した（使用データ：「インターネットによる未婚男女の結婚と仕事に関する意識調査, 2015」）。また、結婚意思なし女性当事者3名（30代後半～40代後半）への半構造化インタビュー調査も補足的に行い、2次データ分析の結果と照らし合わせながら検討した。

【主な結果】

まず2次データ分析では、結婚意思なし女性の生活満足度規定要因について、最終学歴が低いほど、収入が高いほど、総労働時間が短いほど、親との関係が良好なほど、仕事におけるポジティブな経験が多いほど、職場のジェンダー観が非伝統的であるほど、Work-to-Life Conflictが小さいほど、Life-to-Work Conflictが小さいほど、生活満足度が高いという結果が得られた。また、従来未婚者においてあまり検討されてこなかったWork-to-Life Conflictが、性別や結婚意思の有無にかかわらず働く未婚者の生活満足度に大きな影響を与えていると分かった。

結婚意思の有無で分析結果を比較すると、結婚意思ありの2グループでは全ての人間関係要因が生活満足度に対して有意な正の影響を与えている一方で、結婚意思なしの2グループでは「親との関係の良好さ」のみが有意に正の影響を与えていた。また、結婚意思ありの2グループでは「年齢が低いこと」「正社員であること」が生活満足度を有意に高めるといった点が共通しており、これは結婚意思なしの2グループとは異なる結果である。なお、性別による結果の比較も試みたが、特徴的な差異は見られなかった。

結婚意思なし女性へのインタビュー調査からは、人間関係の充実が生活満足度に与える影響が小さい、もしくは人間関係が少ない方が生活満足度は高くなると推察された。また、Work-to-Life Conflictをはじめとする仕事・職場要因が生活満足度に大きな影響を与えているという語りも共通して見られた。2次データ分析とインタビュー調査における対象者の年齢層は異なるため単純な比較はできないが、上記2点は2次データ分析の結果と概ね整合的であった。一方で、居住・住環境要因が生活満足度に影響を与えているという共通した語りは、2次データ分析の結果と異なるものである。

キーワード：未婚女性、結婚意思、生活満足度